

WPT の許容値一部緩和要望に対する意見

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟

WPT の基本周波数以外の漏洩電磁界の許容値等に関しては、既に第 8 回の「ワイヤレス電力伝送作業班」で、国際的統一を図るために、CISPR11 の Class B に適合させる事で、合意されたものと理解しています。WPT 推進者側は不満のようですが、平成 25 年 6 月から検討を開始した作業班の結論ですので、WPT 推進者側も結論に従うべきです。

しかるに、このような「WPT の放射妨害波の許容値一部緩和要望」が、作業班での決定後に再度提案されるのは作業班の構成員として理解しがたいことです。この様な事が社会通念上許されるのでしょうか。今までの作業班の検討は何だったのでしょうか。

WPT という製品の導入のために、既存無線システムの関係者が多数構成員として参画している作業班です。作業班の構成員の多くは、それぞれの既存無線システムの保護を第一の目的として参画していますが、WPT という有益な製品の導入・推進も視野に入れて、この検討に加わっています。既存システム側の構成員は、WPT の導入を阻むために参加しているのでは決してありません。

作業班で行ってきた検証と議論、そしてその結果を無視した緩和要望を受け入れることは容認できません。

今回提示されました追加検討事項は、内容的に WPT 推進者側の「エゴイズム」にすぎないと考えます。WPT の基本技術は新たに開発された技術によるものではなく、古典的な給電システムと理解していますが、「実用化にあたり、いまだ製造上未解決の問題点があるから、許容値を緩めてほしい」というのは本末転倒以外の何ものでもなく、自らの技術が未熟であることを自らが証明していることです。

特に EV 用 WPT 製品の不要輻射性能が商品化のレベルまでに達していない、研究開発レベルの性能である製品を、急いで市場へ投入するのであれば、赤字を覚悟してでも高性能な不要輻射防止フィルター等を使用して、定められた放射妨害波の許容値を順守した製品を市場に流通せざるを得ないでしょう。同じ性能の物を安く作ることがコストダウンであり、コストダウンのために性能を

落とすことはコストダウンではありません。

WPT を推進する企業の経営側が赤字を容認しないのであれば、自らの技術で問題を解決できるまで市場への投入を延ばせば良いだけの事です。

代替えの技術が無く、私たち国民の生命や財産に係るような重要なものであり、早急に利活用が必要なもの以外は、市場投入を急ぐ必要は全くありません。

第 8 回ワイヤレス電力伝送作業班で決定した、「WPT 装置の基本波周波数以外の漏洩電磁界の強度は CISPR11 クラス B の許容値に基づくものとする」との決定を当連盟では支持します。

もし、提案の追加検討を作業班で行うのであれば、1~2 回の作業班で結論を導くことは無理であると思慮されますので、今までの論議を白紙に戻して、作業班での検討を再スタートすべきと考えます。

WPT は電気製品等の利便性を向上する電力伝送システムとして、有効な技術であると認識しています。全世界的な規模で利活用が予測されるシステムですので、目の前に立ちはだかる技術の壁に屈することなく、WPT に立ちはだかる技術の壁を突き破り、電波環境に優しく、既存無線システムから拍手を持って迎えらるるシステムの開発を行って頂きたい。

以 上